

日蓮大聖人御書全集

だいびやくごしあごしおそく

大白牛車御消息

だいびやくごしゃじょうそく

# 大白牛車御消息

弘安 4年 ('81) 60歳さい

そもそも法華経の大白牛車と申すは、我も人も法華経の行者の乗るべき車にて候なり。彼の車をば、法華経の譬喻品と申すに懇ろに説かせ給いて候。ただし、彼の御経は、羅什、略を存するの故に、委しくは説き給わず。天竺の梵品には、車の莊り物、その外、聞・信・戒・定・進・捨・慙の七宝まで委しく説き給いて候を、日蓮あらあら披見に及び候。

粗

々 ひけん

およ

そうちろう

まず、この車と申すは、縱広五百由旬の車にして、金の輪を入れ、銀の棟をあげ、金の縄をもつて八方へつり縄をつけ、三十七重のきだはしをば 銀をもつてみがきたて、八万四千の宝の鈴を車の四面に懸けられたり。三百六十ながれのくれないの錦の幡を玉のさおにかけながらし、四万一千の欄干には四天王の番をつけ、また車の内には、六万九千三百八十余体の仏菩薩、宝蓮華に坐し給えり。帝釈は諸の眷属を引きつれ給いて千二百の音楽を奏し、梵王は天蓋を指し懸け、地神は山河・大地を平等に成

し給う。故に、法性の空に自在にとびゆく車をこそ、  
大白牛車とは申すなれ。

我より後に來り給わん人々は、この車にめされて靈山へ  
御出であるべく候。日蓮も同じ車に乗つて御迎えにまか  
り向かうべく候。南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経。  
罷

おんい  
む  
そうちらう  
なんみようほうれんげきよう  
なんみようほうれんげきよう  
にちれん  
おな  
くるま  
の  
おんむか  
りょうぜん  
かおう  
にちれん

日蓮

花押